アイスホッケー

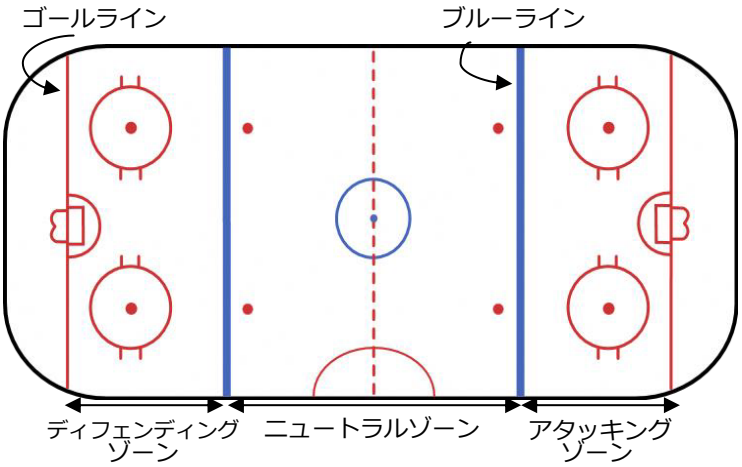
皆さんこんにちは！国際交流員のスティーブン・キャーネルです！来年 1 月に国民体育大会の冬季大会が愛知県で開催されます。豊橋ではアイスホッケートーナメントが行われます！それに向けて、今日はアイスホッケーの歴史、ルール、見どころなどを簡単に紹介したいと思います。

現代のようなアイスホッケーは 1800 年代後半カナダで発明されました。カナダで様々なチームとリーグが組み合わせ、ヨーロッパとアメリカにも普及しました。1910 年に NHL になる NHA が設立され、プロフェショナルアイスホッケーが始まりました。1920 年オリンピックで初めて正式オリンピック競技として行われました。日本は 1930 年頃からアイスホッケーの国際大会に参加しています。

アイスホッケーは氷のスケートリンク上で滑走して、「パック」というゴム製円盤をホッケースティックで打ち、相手のゴールに入れるスポーツです。ルールが少なく、止まらずに長い間プレーすることが多いです。基本的に禁止されている行為はわざと手や足でパックをゴールに入れること、オフサイド、つまりプレイヤーがパックの先にアタッキングゾーンに入ること、アイシング、ディフェンディングゾーンから打って、相手のゴールラインを越えることです。相手を弾き飛ばしてもかまいません。

1 試合は 20 分ピリオドを 3 回行います。引き分けの場合、5 分の延長戦に入ります。サドンデス、つまり先に得点するチームの勝ちです。5 分の延長戦で得点がない場合はシュートアウトで決まります。両チームがペナルティショットを 3 回打ち、ゴールの数が多いチームの勝ちです。各ピリオドが「フェースオフ」で始まります。各チームの一人がリンクの真ん中に立って、審判員がパックを落とし、プレイヤーがパックの所持を争います。各チーム 6 人でプレーします。ゴールキーパー、フォワード（攻撃）2 人、ディフェンス（守備）2 人、両方するセンターが 1 人います。

アイスホッケーで使うスケートリンクは縦 200 フィート x 幅 85 フィートの丸角の長方形の形です。両端にディフェンディング（守備）ゾーン、アタッキング（攻撃）ゾーンがあり、真ん中がニュートラルゾーンといわれています。ゴールでゴールライン、ニュートラルゾーンを示すブルーライン、いわゆるオフサイドラインもリンク上に



描いてあります。フェイスオフスポットが 9 つあります。試合とピリオドの開始に使う真ん中のフェイスオフスポット、アタッキングゾーンとディフェンディングゾーンに 2 つずつ、ニュートラルゾーンに 2 つずつあります。ゴールキーパーがパックを操ることが出来る場所はゴールの前にあるアークとゴールの後ろにある台形のエリアのみです。

スナップショットとリストショットが主な技です。スナップショットとはゴルフのようにホッケースティックを振り、全力でパックをネットに打ち込む技です。一方リストショットはゴールキーパーが読めないようにスティックを振らずに手首の力でパックをはじく技です。プロフェショナルアイスホッケーでスナップショットは 150kph の速度にもなります。

ペナルティを犯すと基本的にペナルティボックスという場所にペナルティの度合いで入る必要があります。ペナルティを犯したチームはペナルティボックスにいる選手と交代することができません。つまり、5 人でプレーが続き、相手チームは有利になります。この間に相手チームが得点したらペナルティボックスにいる選手の一人がプレーに戻れます。ペナルティは 6 種類あります。最も多いマイナーペナルティが 2 分の収容、ダブルマイナーペナルティが 4 分、メジャーペナルティが 5 分、ミスコンダクトというペナルティが 10 分、ゲームミスコンダクトペナルティが退場となり、そして最も深刻なペナルティであるマッチペナルティを犯すと退場の上に、5 分間その退場した選手に交代してはいけません。メジャーペナルティを 2 回犯すとミスコンダクトペナルティとなります。乱闘、足を引っ掛けること、ハイスティッキング（スティックを肩より上持ってパックまたは相手選手を打つこと）等が反則となります。相手選手がゴールを決めるところで反則した場合、ペナルティショットを与えられます。1 人対ゴールキーパーでゴールを狙えるチャンスです。

豊橋は 2021 年 1 月 25 日から 31 日まで豊橋アクアリーナで少年のトーナメントを開催します。成年のいくつかの試合も開催する予定です。少年アイスホッケーを制する北海道は来年も優勝するでしょうか、観てみましょう！